

南奥駆道（行仙宿から東屋岳）の巡視・整備

◇実施日…2020年3月15日（日） 晴

◇参加者…沖崎吉信、生熊敏男・千満子、濱野兼吉、中前偉、山川

治雄・自知、岩本信行、志岐敬、山本直子、梶野照雄

瀧本昭太郎、斎藤和美、平田美紀、小中雅美

15名

近鉄吉野口駅で志岐さんと山本さんを拾って、ノンストップで登山口に向かった。新伯母峰トンネル付近から見える大普賢岳は真っ白になっていた。昨日の雨は標高の高いところでは雪だったようだ。集合時間の8時半から10分遅れで登山口に到着、すでに12名が揃って待っていてくれた。荷物をモノレールに積み込み、靴を履き替えている間に全員歩いて登り始めていた。

モノレールのエンジンを掛けて終点に向かう。終点で荷物を降ろしみんなの到着を待つ。5分ほどで次々と到着、それぞれ荷物を背負って行仙宿に向けて歩き始めた。

行仙宿に到着。今日の行程は行仙宿から東屋岳を経てR425に下りることになった。沖崎、生熊の2名が下山口まで車を回す役目となるので、出発前に全員揃った写真を撮る。

捲き道の点検を山川、岩本、濱野の3名にお願いして、10名が笠捨山山頂を目指す。



登山口で作業説明



出発前に全員で



捲き道分岐

【行仙宿、車回送班】

朝9時半過ぎに13名の仲間を見送り、早速倉庫内の整理に着手する。ブルーシートやロープ類も相当量デポされているし、道具・道具なども種類が多い上に、持ち込みの都度倉庫に納めるだけなので、用途ごとの分類が出来ておらず、使用の度に置き場所を探すのに一苦労している。倉庫整理は一筋縄にはいかず、2時間掛かって左側の上2段にやっと目途がついた。お昼前になっていたので作業中断、小屋で昼食を摂る。

巡視班は2時半ごろに下山予定なので、1時過ぎに行仙を出るか？と話をしていたが、梶野君への無線で、下山は1時間位遅れるとのことだった。笠捨山北面の雪が深く苦労していたようだ。

昼食後、チェーンソーを出して、運び上げた雑木を小切る。終了後、椎茸菌を打ち込んだ楷木の覆いにかけていたブルーシートが強風で捲れあがっているのを見つけて「もう、立ててもいい

時期だ」とのことから、杉の木に細めの丸太を2ヶ所かけて、楳木を立て掛けて並べた。収穫が楽しみだ。戸締りなどを確認して、午後2時少し前に小屋を後にした。

(記；沖崎)

### 【笠捨山捲き道点検班】



捲き道班の倒木処理

濱野・岩本・山川の3名は逋信道の点検のため、9時40分過ぎに行仙宿小屋を出発した。奥駆道から逋信道に入り間もなく杉の倒木が道を塞ぎ、山川さんのチェーンソーで処理、山川さんは熊野市の国道42号線と海岸の間にある国有林の間伐処理に永年携わってきただけに、チェーンソーの扱いは本職並みである。

逋信道は笠捨山の中腹を巻いて、奥駆道の葛川分岐に通じている。距離は長いがアップダウンが少なく時間距離は短く便利。台風や大雨の後は、崩落や土砂崩れがないか必ず点検し安全確認を行う必要があるうえに、ロープを張ったり木道を渡したりさらにその上にエキスパンドメタルで滑り止め等の対策は施されてはいるが、一歩間違えば谷底に滑落をする危険性もある。一般の人にはすすめられな

いコースである。

私たちは休憩することなく順調に進み、鉄塔の付近で高野槇の木をみつけ岩本さんが彼岸のお供えにと採取する。数年前に逋信道に10個の木札の標識を付けたが、全部をきちんと確認することはできなかった。中間地点の5の標識のところでもロープを繋いでいる木が枯れ危険なので、手を添えずに通過するがここはガレ場で杭丸を打ち込み安全対策が必要である。

途中の道は凍結していたが滑ることもなく通過できたが、今後凍結しなくなったときの状態がどうかきちんと点検が必要なので、山川さんより今後この道の利用を含め我々も総合的に考える必要があるのでは、と提起を受ける。

奥駆道との合流する近くで雑木の倒木を処理し、11時35分に葛川辻に到着。山川さんは付近の道を塞ぐ杉の倒木を処理し、笠捨組を待った。

### 行動タイム

行仙小屋09：40→10：25鉄塔ベンチ10：50→11：35葛川辻

(記：濱野、写真：岩本)

### 【笠捨山山頂班】

P 1246へ登りだすあたりから積雪があり、笠捨山山頂付近は10cmほど雪が積もっていた。山頂までに小径木は手ノコで3本、20cmほどの木をチェーンソーで2本切除した。山頂で少し休憩して葛川辻へ降りる。葛川辻までにチェーンソーを2回使用した。

笠捨山西側も積雪があり、急な下りで足を滑らさないように慎重に歩を進めた。12時半を過ぎて、やっと葛川辻に着く。捲き道班3名はすでに到着していて、少し先の倒木も処理済みだった。お昼を

過ぎていたが、26番鉄塔の広場で昼食を摂ることにして出発する。



笠捨山北面で



山頂に到着



笠捨山西側で

12時40分に鉄塔広場に到着、思い思いの場所で昼食を摂る。少し風があるが、日差しは強く、体感温度はプラス1℃位に感じた。



26番鉄塔で昼食



鉄塔先の倒木



槍ヶ岳山頂

午後一時に鉄塔広場を出発、最初のなだらかなピークを越えたところには杉の木が倒れこんでいた。山川さんは「しゃがんで潜れるので、置いとこや」と言うが、ここまでまた切りに来るのは大変なので、チェーンソーを下ろした。約7分で2ヶ所を切断して登山道を確保した。その後、槍ヶ岳の山頂と鞍部の地面の状況を調べた。どちらも地面の下は岩で、杭を打つことは困難であると思われた。山頂は簡単に登ることが出来、「紀州わらじ会」の朽ちた標識があるだけで、碑伝は無かった。



クサリ点検（東側）

地藏岳山頂

クサリ点検（西側）

中前さんにもお願いして、地藏岳前後に設置のクサリを点検する。シヤツクルに緩みはないか、取り付け部の立木に異常は無いかを確認した。女性が多かったので、地藏岳越えに少し時間が掛かった。午後3時、やっと東屋岳の分岐に到着。ここまでに3本の倒木を処理した。R425に向かって下るが、落葉で不明瞭な場所が多く、2回道を外れて、15分ほどロスをした。

午後4時半、ようやく全員が国道に下山、長い間お待ちいただいた  
沖崎さんにお礼申し上げます。



東屋岳東側で

四阿ノ宿

東屋岳

冬季通行止めが解除されたばかりの国道は、掃除されていたのか  
落石や、水流による落ち葉の堆積も無く、スムーズに走行でき、午  
後5時、補給路登山口で解散した。



植林を下る

国道425に下山

### 行動タイム

(記；梶野、写真；志岐、瀧本、梶野)

行仙宿 09：40→09：56 捲き道分岐→11：50 笠捨山→12：45 鉄塔  
広場 13：00→14：00 地藏岳→15：00 東屋岳分岐→16：30 R 4 2  
5 ↓補給路登山口 17：00